



卒業、学年を修了して…

次なる「可能性」に向けて…飛び続けてください！

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響下…3年目となりました。子どもたちの学ぶべき『教育課程』においては、“学びをとめない”という方針で、行事や学習する内容を「吟味・精選・工夫」しながら実施をした年となりました。

運動会は各学部の現状に応じて、小・中学部は体育館、高等部は運動場で開催をすることができました。学校としても運動場での開催は久しぶりで、高等部の迫力ある競技と演技、仲良く助け合いながら、力いっぱい取り組む姿が印象に残っています。

小・中学部は、3年ぶりに「25m プール」での水泳指導をすることができ、毎日のように、賑やかな歓声が学校中に響き渡っていました。

校内外での宿泊学習にも思い切って取り組み、泊を伴う「修学旅行」では、各学部の最高学年は貴重な経験と思い出ができたことと思います。

本校での教職員の指導・支援体制は、子どもたちとの直接接無しでは難しいことも紛れもない事実です。そのような状況で、子どもたち一人一人の思いや感じ方、保護者の方々の捉え方と理解、教職員の責任感と不安感…多くの実態が交錯しているのが正直な現状です。御理解と御協力を常にいただきまして「ありがとうございました。」

**今年度も…子ども達は、三密やマスクの着用に耐えながらよく頑張りぬきました！
来年度は、規制も緩和され…どのような「学びの場」が展開できるか楽しみです！**

3月6日（月）高等部3年生22名の卒業証書授与式です。優しく頼もしく学校を牽引してくれた卒業生に…幸多かれ！

3月15日（水）小学部6年生22名、中学部3年生11名が、卒業証書を受け取り中学部と高等部という新たなステージへと向かいます！

2月の終わり…春めいた陽光に照らされて、校庭の菜の花にハチが密を求めてやって来ていました。

**「マルハナバチは、航空力学的には飛べるはずがないけれど、
マルハナバチは、航空力学なんて知らないから…、
とりあえず飛び続けているのよ！」** メアリー・ケイ・アッシュ

マルハナバチというのは、2cm前後のまるまるフワフワとしたハチ。その体に対して羽が小さいために航空力学的にみると飛ぶのは不可能だそうです。人は「できない」と思った瞬間にできなくなるものですし、やる前から「絶対ムリだよ！」なんて、やる気をそぐような言葉にも左右されがちです。

…「できる」と信じること。チャレンジする場とチャンスを何度も与え見守ること。最初から否定をしていたら、できることもできなくなってしまうですね。（校長 神原尚洋）



各部の卒業制作



小学部

誕生日会 ケーキとボード



中学部

園芸班の看板



高等部

「しあわせガーデン2022」

